

データの利活用推進に向けた技術ガイドライン付録 事例概要版

ここでは、東京都においてデータ利活用が行われた事例を2つ示す。それぞれの事例では、実施内容とともに成功起因やデータ利活用の効果、そしてガイドラインをどのように活用すればデータ利活用の効果を得ることができるかについて整理している。

掲載事例一覧

No	事例名	データ利活用の分類
1	キャッシュレス推進のためのアンケート分析・可視化	データ整備/可視化/分析
2	市場衛生監視業務記録のデータ整備及び可視化	データ整備/可視化

1. デジタルサービス局：5 レス推進のためのアンケート分析

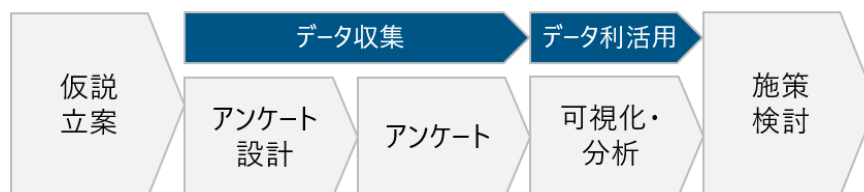
1.1. 概要

1.1.1. 背景と目的

デジタルサービス局では、全 78 都立施設内の全店舗が円滑にキャッシュレスを導入するための施策立案が求められていた。キャッシュレスを円滑に推進する施策を検討するため、施設へのアンケートを通してキャッシュレス導入の課題及びメリットを明らかにすることを目的とした。

1.1.2. 実施内容

想定される課題やメリットの仮説を設定し、仮説検証に必要なデータを収集できるようにアンケートを設計した。アンケートで収集したデータを可視化及び分析することで仮説の検証を行い、施策の検討につなげた。



1.2. 成功起因

- アンケートの設計に先立って、仮説を設定したこと
- 仮説を検証するために必要なデータを洗い出し、それらのデータが得られるようにアンケートを設計したこと
- 設問を選択式にし、データ品質を担保したこと

1.3. データ利活用の効果

アンケート結果を可視化・分析したことで課題やメリットが明らかになり、具体的な施策を検討できた。また、同様のプロセスでアンケート分析を政策立案に活用することも可能である。

1.4. ガイドライン活用のポイント

- アンケートを設計する際にデータ品質チェックシートを使うことで、目的と照らして必要なデータ項目がアンケートの設問で網羅されているか等、完全性の観点での確認ができる。
- アンケートフォームを作成する際にデータ品質チェックシートを使うことで、回答の表記ゆれや誤入力等を防ぐことができ、データの正確性が向上する。それにより分析の際、データを補正する手間が減る。

2. 福祉保健局：市場衛生監視業務記録のデータ整備及び可視化

2.1. 概要

2.1.1. 背景と目的

食品衛生法改正により HACCP 基準に沿った衛生管理が完全義務化され、監視指導における点検項目等が大幅に増加していた。豊洲市場における水産物等の衛生監視業務においても、点検項目の増加に対応する必要があった。そこで、適切な監視指導を実施するためにデータを整備及び可視化し、業務の効率化や質の向上を目的とした。

2.1.2. 実施内容

従来、紙で実施していた業務にタブレット端末を導入し、それまで実施していた監視業務や事業者への説明をより効果的に実施できるようにした。



2.2. 成功起因

- タブレット端末による業務へ円滑に移行できるよう、事前に業務プロセスを整理したこと
- 衛生監視員が業務中、即座かつ容易にデータを記録・閲覧できるよう、紙業務からタブレット端末を使用する業務へ移行したこと

2.3. データ利活用の効果

- 監視業務に係る記録を集積・共有することで、職員の暗黙知を形式知にすることができ、効果的な監視に繋がった。
- 点検結果を効率的に記録、閲覧及び管理できるようになった。
- 客観的かつ説得力のある説明ができるようになった。

2.4. ガイドライン活用のポイント

- 業務プロセスをデジタル化する際にガイドラインを活用することで、職員が監視記録を二重登録できないようにする等、データに矛盾が生じないように要件定義や設計等を行うことができる。それによってデータの一貫性を担保することができる。